

第 38 回京都府高等学校総合文化祭 吟詠剣詩舞部門



あいさつ

吟詠剣詩舞専門部
会長 伊藤 雅史

「毎日決まった時間に起床して登校し、授業を受けて、部活動に参加する。体を動かし、人と会話を
をする。帰宅後は家庭学習の時間を確保しつつ、諸々の用事を済ませて、翌日に備えて就寝する。」

コロナ禍の中このような規則正しい生活は、学校があってこそ成り立つのであるということ、
多くの人が実感したのではないのでしょうか。

現在、私たちを取り巻く環境は、先行き不透明で、価値観の多様化が進んでいます。

しかし、この部門におきましては、現代の高校生が、日本の伝統文化をしっかりと受け継ぎ、詩の
魂に迫ろうとしている姿は、文化立国を目指す我が国にとって非常にたのもしい存在になっていま
す。

吟詠剣詩舞は、江戸時代末期からの伝統文化であり、漢詩や和歌を吟じる詩吟と、詩吟に合わせて
剣や扇などを持って舞う剣詩舞が融合した舞台芸術であり、日本独自文化のひとつであります。

日々研鑽を重ねた成果を遺憾なく発揮し、一生の思い出に残る大会になるよう心から期待をいた
します。

最後に、今大会を開催するにあたり、御支援、御指導いただきました京都府・京都市教育委員会
様はじめ、特別協賛の村田製作所様、京都府詩吟連盟教職員や保護者の皆様の御理解、御協力のお
陰で開催することができました。心よりお礼申しあげあいさつといたします。